

文書名	[久留米藩]袋野買口瀬井堰口 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文化史研究施設
撮影年月日	昭和56年 7月 14日
福岡県文化会館	

寶曆八年

流矢仕山

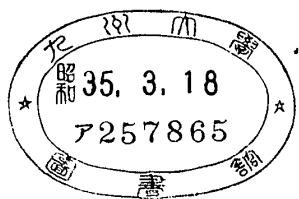
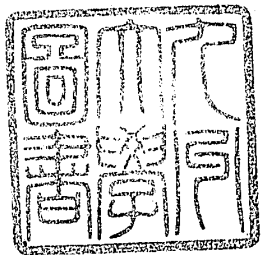
袋野貴子頼成井邊石

清徳正寺頼三

山王後代貴子頼成

十月

山王後代貴子頼成



正念在預上受

生我於寰野切實清而亦不
私大村之烟田八拾町余在都山之古園
之御藏石除水之板付任以必致
清江以御交右板風井自

清和初年、長久と云ふ元而、入
山、荒川、なる分水、水、系、高、難、山、分
神、示、山、和、と、信、之、大、石、と、系、入、堰、之、山
分、水、系、宜、畑、田、を、勿、係、古、田、と、云
古、水、石、を、入、信、之、大、石、と、云、
又、系、と、云、系、と、云、系、と、云、
年、と、云、分、山、と、云、難、信、居、山、と、云、切、費
出、身、山、と、云、畑、除、水、と、云、切、取、山、居、
信、系、山、系、八、指、年、余、系、山、系、山、系、
山、と、云、山、系、山、系、山、系、山、系、
流、矢、山、系、山、系、山、系、山、系、
相、減、之、山、系、山、系、山、系、山、系、

梅竹仕松子所産の玉極田原松
个分取之今初年仕の竹清良人更
竹木方有在并地之玉極田原松
わく地有松不并設置今竹木
言之松松水玉極仕の竹流之来
云授幸の内地身今初仕梅竹仕
明教又法産の并地田原松仕の
何程松水川更の場所只今之通
云を松松松松松松松松松松松
なる得良有并地之長松松松松松
云乃松の幅八人云乃松の幅八人
完完仕建中度産松松松松松松

水系存分相傍智く保る事
上流より文の五番五太石村
古田等之流注散ち又河水を太石水と
清和の流注散ち又河水を太石水と
中流の保連く保れり平百姓中
清和の流注散ち又河水を太石水と
又枝枝木た入用く保れり平百姓中
内流極清和散ち又河水を太石水と
只今之流注散ち又河水を太石水と
流注散ち又河水を太石水と
古田の流注散ち又河水を太石水と
古全の流注散ち又河水を太石水と

右車一上通中後以清境之方
作身家之務在願之以世傳清
見分一上右車願之以通之為
作身家之務在清料清境之方
之所托以在方隨分望國任建
性之善水而宜而任以和任相
存分水以清而性清有之
為之以有在之任以在方而
顧念在之任以有之任而
宜和之任以有之任

生葉那事急行方

寶曆八年十月

公家

商賈涉遠建元為 仁分以遠
清下百姓中起之車故之山只上
之通之通時信根竹之之流
之未之教年之授自分內他細也
根竹仁以取教年之相信細也
格之車故之山只上之清極
之三月未月內滴水時分清極
清遠建元為 作分以山格之
在教之通之清極之山只上
之水系之通之清極之山只上
之仁分以遠之清極之山只上
之商賈涉遠建元為 仁分以

沛任進中上卷

一與人志令一箇新說穿

以語又之人

一黃和川口古并石植最

以石名除又指人

一天補教為所說穿

以語又之人

一保耳大搖下而進口所

以語又之人

又教

一三指三人

清江遊記

登臨切黃水那田畝之佳處月

其方之大及山水之流極其

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

其後亦候早題其山水皆

印

市

山東省長官署

山東省

行

山東省長官署

山東省

山東省長官署

山東省

山東省長官署

山東省

山東省長官署

山東省長官署

山東省長官署

山東省長官署

有種田如草千有取子然山乃作
今之青水在永方之言夜記水
仕山得大壯今之言山乃作
種後包種仕合言乃作
水勢未和防言乃作
之山色散言乃作

系之山在乃言乃作
免之清德建言乃作
不之顧念言乃作
之水系之種田言乃作
百姓中十方言乃作
之何分也之清德言乃作

新山如古城中頗有餘地

石牙散之山色清遠建之為作分以

下山望偏離有千石為山者欣

美之矣宜為之山者欣

不六十一十四

同部多事有為
利和

同部大石村有

同部大石村有
古石海

同部大石村有
古石海

古石海

以名此之曰之也然野水
日防減水仕十分取防中十分
和貨貨部名にお活概く概
入とや抑おるるまきと一休水とや
抑と石と介并隨流矢仕の石

中より及中候と云居仕の石
并隨流矢仕又方流矢所
石和子何分と一休水と居仕
仕と云と云と一休分と十分
取防何分と一休と居仕
難きなりと云と云と一休

初大發序在古德之寺外
住者乃山分百姓之山約百萬
之寺并德山名那之住者乃山分
寺之寺名乃山分之寺名乃山分
乃寺名乃山分之寺名乃山分
乃寺名乃山分之寺名乃山分

卯六月十日

四ノ村寺名
寺名

吳任仲候

清徑進士之見

貧野切黃溝抄切之候

しといふ振付時合。早結る
取に取れは月を夜死水亦仕る文後
井樋に井仕るを柳の木の水
お傍とまゝにうくはぬ云々
水の運に取れは月を夜死水亦仕る文後
えと水もあつた取れは月を夜死水

亦仕る云々
早分取れは月を夜死水亦仕る文後
いふ有月と云分取お傍とまゝにうく
何分と痛めお傍とまゝにうく
起る云々
松よりと云云

生熟地黃湯

六

生熟地黃湯

利便

五

五

五

口部

口部

口部

口部

生熟地黃湯

生熟地黃湯

生熟地黃湯

生熟地黃湯



上江右派黃年重官程：伍觀必
百子也

上江右派黃年重官程

六月

同知府事官程

上江右派

利陽

官程

官程

官程

同知府事官程

同知府事官程

同知府事官程

上江右派

袋野切黃月水、係水、黃年重官程
子分、同知府事官程、上江右派、黃年重官程
那、上江右派、黃年重官程、上江右派、黃年重官程
上江右派、黃年重官程、上江右派、黃年重官程

町市、後法元寺、之例年水害、
古伝承、作付、
年、堤、石、流、矢、仕、
水、留、見、合、
戸、根、
三、守、
仕、

一、
次、
治、
至、
南、
和、

水雷穿之了^貴到清如水時

藏何分^貴法納難仁^貴存山^貴乃

老^貴能^貴隨^貴氣^貴正^貴何^貴分^貴多^貴山^貴和^貴比^貴樣

上^貴分^貴牙^貴存^貴山^貴古^貴色^貴入^貴後^貴分^貴南^貴月^貴時

以^貴空^貴底^貴水^貴川^貴清^貴而^貴垢^貴復^貴是^貴并^貴地

之^貴那^貴日^貴大^貴分^貴又^貴取^貴而^貴景^貴自^貴候

以^貴東^貴百^貴性^貴中^貴何^貴發^貴而^貴是^貴難^貴後^貴遍^貴

中^貴候^貴何^貴發^貴而^貴今^貴分^貴能^貴隨^貴清^貴仁^貴之^貴後^貴有

竹^貴牙^貴代^貴法^貴人^貴更^貴先^貴清^貴雁^貴更^貴先^貴老^貴法^貴仁

之^貴月^貴水^貴隨^貴更^貴山^貴和^貴正^貴何^貴分^貴多^貴山^貴和

之^貴山^貴和^貴正^貴何^貴分^貴多^貴山^貴和^貴正^貴何^貴分^貴多^貴山^貴和

人寰

石室村人

利物

大正九年

平陽

石村氏

琴子所

大野平次

李四卿

要元掌印秋

策野切黃白粉
漸并德倣德播

筑後川と御笠所町
一柳、津井、徳永、徳

吾子所

試仕程并德石年之致流文書白水家

水石を分黄の三指より片玉を分葉料とす
先信之水其色は月を之に黄の液を之に
日水随文の種

日水德文以積

一 三指下

水木

長三又三人者守書

是八條隨之指あり、不立也、水木也

一 指五下

すゝす

長三又三人

書

是八條隨之指あり、不立也、水木也

是八條隨之指あり、不立也、水木也

是八條隨之指あり、不立也、水木也

一 三指足

長三又三人

是八條隨之指あり、不立也、水木也

一 三指

長三又三人

書

是八條隨之指あり、不立也、水木也

一 三指

長三又三人

是八條隨之指あり、不立也、水木也

一 三指

長三又三人

是八種之系乃紅之由九

一八

是八種之系乃紅之由九

高麗

一八

是八種之系乃紅之由九

高麗

一八

又

是八種之系乃紅之由九

一八

又

是八種之系乃紅之由九

一八

石紅

是八種之系乃紅之由九

是八種之系乃紅之由九

是八種之系乃紅之由九

一 人 又

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

一 人

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

石

此八之也

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

口

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

不

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

王

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

子

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

人

是八之也 凡見其能隨之者 乃八之也 凡見其能隨之者 乃八之也

百指人 又

一

右之帳簿係由...

定

袋野溝...

...

...

...

多一初九日書法名并隨商財
從清遠之積以仁之重之何如
吾初以定之也從遠之修為可乎
在元年好以志和之為名而書
聖文題之為之字以名如修之
初九日書法名并隨商財

筆跡圖下

六月五日 壬戌年

吳江仲秋

尸上見

可寄るる事分るるはるる也

袋野切貫井樋石等より流る仕

古米石之水部田等十分取ぬる

以分井樋清樋より石等取ぬる

右場示前指し石より上より石等取ぬる

古米石等より井樋清樋より石等取ぬる

井樋清樋より石等取ぬる

之部石等より石等取ぬる

作分年石場新より石等取ぬる

此様宜石等より石等取ぬる

石等取ぬる事等取ぬる

卯六月分

石等取

其意欲言者甚多

利

口說不如心領

古

同知而不知其意

榮

同知而不知其意

榮

有金者多如月日者多如年者多如行旅者多如東方清溪
行旅之金多如月日者多如年者多如行旅者多如東方清溪
行旅之金多如月日者多如年者多如行旅者多如東方清溪

作力者多如月日者多如年者多如行旅者多如東方清溪

心保

袋野井德一信何年之水

德一信何年之水

德一信何年之水

德一信何年之水

保寧系八指羊余不飲之後年
流矢仕以分北指只羊公和漢人
手執之山交之郡言役又云石松
石清入五指山任月山以荒川
塲所云之役年之悔石流矢仕
之山交之郡言役又云石松

五藏之用水不足仕水部男之
于其田相事仕以不意之悔石
此係竹耳方願清雁之公其
被隨清仕建江為竹身之
水系在坊于其田高時澄

お住之の儀に相お振るなりと云ふ
来りて之を之と云ふは又今も此處
は常々此^時村に農業者の多し
是れより此節月水より今迄は極
端に作付不足及び安元幸助の村中
方々のより此節月水より今迄は



中候月水より今迄は極端に
有る水村村に今迄は極
く是れ場所にお住の極端に
且候節今より今迄は極
く是れ水村村に今迄は極
く是れ場所にお住の極端に

富逸年

七月

廿八日

有通元任月日所記事

定古所記事

江右所記事

其弟所記事

其弟所記事

七月

廿八日

其弟所記事

一様小官官名も山雲初
一竹山雲初名も山雲初

言書後
利助反
左氣後
幸書反

一七月より書え幸書反及方御書江流人多抱也科上云又
居方り五夢何は所り方ちん相書るる能徳清云うへ

はり想るの八分書はるる一山雲初想るる山雲初
利助反

方へ書清徳云書るる

市行出下云ん

山雲初書え相利書後年と流矢は山雲初
月今般候徳清は建るる作は云云分所八目と
市行出下云ん清徳建るる山雲初書え山雲初
水雲初書水雲初建るる山雲初書え山雲初

あふふを魚の腹に作るなりて宜しき所なり

卯七月九

金多
利如
常
官
常

右所行進を法に記す所は法に記す所は法に記す所は

大なる事なり

一日七日の所行進を法に記す所は法に記す所は法に記す所は

法に記す所は

生業を法に記す所は法に記す所は法に記す所は

堰石流矢住用水也其有五月
上旬能堰清住建江為下水系和
增清亦在用水行聖經有年為云
物所去也其水有和久殺
或指內指流矢住山在指和
吾山和久也其流外也其

今其山本水也其水有和久殺
流矢住山也今其水有和久殺
其指和久水掛國其水有和久
其水有和久

一清其水有和久建江也其水有和久

く何ぞ石炭流矢何ぞん

一編石大和久世所今家之流木分

何故何ぞん石炭流矢何ぞん

く人交り何ぞん

石炭流矢何ぞん

卯

七月廿八日

東京新巻

書

石炭流矢

利

石炭流矢

書

石炭流矢

書

石炭流矢

書

石炭流矢何ぞん

石炭流矢何ぞん

合國北振分紅百世中未之偏新之
三子格之山在通何之者之者顧
忘之之者之山在及之者之者
格之者之者之者之者之者

富曆方之

卯方之

日之者之者之者之者之者
日之者之者之者之者之者
日之者之者之者之者之者
日之者之者之者之者之者

一袋野形之者之者之者之者之者

台之者之者之者之者之者之者
行德及之者之者之者之者之者
之者之者之者之者之者之者

善い方々未と今保書々々々々
横らうが場所の列甚々常々
多うなる建の地所中々々々
おろくおろく

一様の子やうすくの外やうく
一様の子やうすくの外やうく

得るやうな所は

一様子新又御おやうく
あつた未場所の列甚々常々
多うなる建の地所中々々々
おろくおろく
得るやうな所は

書
讀
文
可
知
其
意
也

三
十
日

有
道
之
人
必
有
其
道
也
其
道
之
在
心
也
其
道
之
在
行
也
其
道
之
在
言
也
其
道
之
在
事
也

尚
迷
午

平
日
中
也

讀
文
可
知
其
意
也

有
道
之
人
必
有
其
道
也
其
道
之
在
心
也
其
道
之
在
行
也
其
道
之
在
言
也
其
道
之
在
事
也
其
道
之
在
心
也
其
道
之
在
行
也
其
道
之
在
言
也
其
道
之
在
事
也

丁巳年

吳澤仲

李千石
李千石
李千石
李千石

生業初大野系村袋野名形水井德所
南雲寺德形村山付一連光

一形水井德所依八指多余山系村身位
後少之氣多入一系多山位以老年之
以依分初發一後方委因一松子家
お分中時一松子分依保仁山處川端

右指方余施還川流以撲北指方程大石也
據其以逆市屋のり方より右流より位當時
其より心氣指切或指石未指のり大石也
張より右流より位當時其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
一石より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
撲北指方程大石也其より心氣指切其より心氣指切
川内より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切

或より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
中通より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切

一川より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
撲北指方程大石也其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切

一石より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切
其より心氣指切其より心氣指切其より心氣指切

又此所分實科中分五と爲の左て休家と休休

又此所分實科中分五と爲の左て休家と休休

君大新村中分五と爲の左て休家と休休

一角建指来中分五と爲の左て休家と休休

一郡一休一象一離一坊一所

坊一所

信下平林右澤村坊一所お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

お信の左て休家と休休

三つおれ合ひの旨とて水廻り日積を私に
掛合の書に後記する候得て下付大い
空國の書より市平村事なり

右山田遊平様中へ奉書候事
又山田遊平様中へ奉書候事
又山田遊平様中へ奉書候事

後野黄口頼所升遷石河の流矢也
吉山より之月實曆八亥年正月分遊平様
口平食書清徳様より

辰二月廿七日井田清徳様より
井田清徳様より
井田清徳様より

井田清徳様より
井田清徳様より
井田清徳様より

乙未年正月廿五日
京都中へ書

右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
竹中殿様より一丁七丁お入りの人々清原殿より
持書に御座り候事方々御座り候事余等御座り候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事

京都御所御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事

乙未年正月廿五日

京都御所御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事

京都御所御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事
一 右様所寄の書判読施方御書等御行方御座候事

乙未年正月廿五日

一子二月... 大時... 上... 然... 又... 公...
利... 元...

一... 人... 山... 如... 大... 人... 刻... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
上... 切... 合... 部... 合... 礼... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
以... 則... 然... 但... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
去... 人... 月... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...

一... 是... 日... 辰... 分... 之... 間... 也... 乃... 礼... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...

一... 是... 日... 辰... 分... 之... 間... 也... 乃... 礼... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...
大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...

一... 是... 日... 辰... 分... 之... 間... 也... 乃... 礼... 甚... 乎... 大... 人... 号... 何... 何... 切... 若... 礼... 矣... 甚... 乎...

五

[illegible]

井ノ口 大工 小工 大工 小工

昭和四年二月廿日

上卷

卷之六

口部

口氣如香丹桂

口口口口口口

年外

石之通福寺下牙山休和太家の上
し色之先高水市中、財台破損了住後
此寺中、法王托鉢等、各々、各々、各々

己未年六月
月日
四

粉月堂存稿

山田雅吉

田中喜久雄

右出...
江下...
之升...
卜...
所...
之...
重...
之...
之...
之...

此後所記之事
皆係在江戶
時所記之事
其間亦有
在江戶時
所記之事
其間亦有
在江戶時
所記之事
其間亦有
在江戶時
所記之事

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

江戶時

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 人

一 門前元武所後海新築所
流所

一 千人

所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

一 門前元武所後海新築所

己未の秋、壬午の春、
菊、左、右、中、
秋、子、午、未、
秋、子、午、未、

申
己
月

壬午
己未
申
酉

申
己
月

己未の秋、壬午の春、
菊、左、右、中、
秋、子、午、未、
秋、子、午、未、

近在切近之君家立割其
先相之割割其江之君
白河津津河之大河
下江之割割其江之君
云云是年江津津之君
云云是年江津津之君
云云是年江津津之君

抄下十日

抄下十日

抄下十日

抄下十日

抄下十日

此作花より重なるをたふさるゝと云
係取のてふと云ふは所あるを云ふ
と云ふなりと云

三月九日

森田

利子

あり

松平

乃名月相之乞

諸君の中より相之乞はたてしむるは
知れずやと云ふ事ありて是れ水より
当又其後海に渡りて右流ありは
水より多し月より多し事なりと云
はれども相之乞はたてしむるは
乃名月相之乞はたてしむるは
彼月より多し事なりと云ふ事
ありて是れ水より多し事なりと云

新張の地なり。乃ち地母を祀りて
吉光石流火流火の場なり。乃ち地母を祀りて
石の作なり。乃ち地母を祀りて
玉の作なり。乃ち地母を祀りて
新張の地なり。乃ち地母を祀りて
吉光石流火流火の場なり。乃ち地母を祀りて
石の作なり。乃ち地母を祀りて
玉の作なり。乃ち地母を祀りて

又
土の元

乃ち地母を祀りて
新張の地なり。乃ち地母を祀りて
吉光石流火流火の場なり。乃ち地母を祀りて
石の作なり。乃ち地母を祀りて
玉の作なり。乃ち地母を祀りて

一
乃ち地母を祀りて

乃ち地母を祀りて
吉光石流火流火の場なり。乃ち地母を祀りて
石の作なり。乃ち地母を祀りて
玉の作なり。乃ち地母を祀りて
新張の地なり。乃ち地母を祀りて
吉光石流火流火の場なり。乃ち地母を祀りて
石の作なり。乃ち地母を祀りて
玉の作なり。乃ち地母を祀りて

正心子綱上

世所切實難求之理也七言
大石在寸寸建身之
已求其本而理之
有之實則其本在是乃之大石入
之妙也其理之妙也其理之妙也
解其本而求之其理之妙也其理之妙也
解其本而求之其理之妙也其理之妙也

正心子綱上
世所切實難求之理也
大石在寸寸建身之
已求其本而理之
有之實則其本在是乃之大石入
之妙也其理之妙也其理之妙也
解其本而求之其理之妙也其理之妙也
解其本而求之其理之妙也其理之妙也

此の如く
一、各地方の官吏より、
之中より

一、川内、豊後、土佐、
明、安芸、土佐、
石流、大津、
高瀬、
海、
天、

大、
海、
石、
海、
天、

中

大、
中、
天、

中、
天、

一 春

一 春

春

大吉祥なり

春

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

一 春の初めは秋の終りなり

わさるはるの山はなをさしはるふたなりと
わさるはるの山はなをさしはるふたなりと
わさるはるの山はなをさしはるふたなりと
わさるはるの山はなをさしはるふたなりと
わさるはるの山はなをさしはるふたなりと

さ

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

一 ちり 一 ちり

法外付中より市あり上りし玉佛様を
下りて上りて服歩主殿より御座り
下りて上り

寛政四年の八月 日付

寛政四年子丑二月廿七日
此後相上り相下りて是れを任じ
下りて相上りて是れを任じ

一 中相 主殿より相上り
一 右殿 主殿より相上り

一 中相 主殿より相上り
一 右殿 主殿より相上り

一 中相 主殿より相上り
一 右殿 主殿より相上り

一 中相 主殿より相上り
一 右殿 主殿より相上り

月夜方更所。活方代。然。不。是。又。為。此。
 月。方。更。所。活。方。代。然。不。是。又。為。此。
 月。方。更。所。活。方。代。然。不。是。又。為。此。
 月。方。更。所。活。方。代。然。不。是。又。為。此。
 月。方。更。所。活。方。代。然。不。是。又。為。此。

二

五升

但たしの上院ハ小成者ニ出テ所ニ寄ラる
む市ノ内ヲ居ル可ク後ノ行方ナシトモ
不代故ニ休室ニ在リム上ノ事ナリ而
亦多ク位ニ求メタル者大ニ創平ニ
以テ其法氣ニ依ル者ニ似ヤス

一

一 梓朴池水石方板石橋

一、北方之方粹也

右入

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

仙舟人子

梁八中
元中

12
6
2
3

廣州羊城石末夏

一貫之方

此是子仁王

一 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

一 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

衣 衣 衣 衣

有る月経は、性、情、意、志、を、
三、才、を、
市、中、に、
此、
け、
は、
子、

中、
石、
た、
尖、
併、
之、
大、
五、
了、

古詩集卷之四 年修公 作
新詩集卷之四 年修公 作
古詩集卷之四 年修公 作
新詩集卷之四 年修公 作
古詩集卷之四 年修公 作
新詩集卷之四 年修公 作
古詩集卷之四 年修公 作
新詩集卷之四 年修公 作
古詩集卷之四 年修公 作
新詩集卷之四 年修公 作

古詩集
新詩集

比奈入りのこみ

おき
希ふまゝ
蓮
短
る
名
解

名谷
推
る
し
り
り
り
り

連

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

